

入学者受入れの方針（学部）

文学部

文学部が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、志願する学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、文学部の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修やその他の活動において、他者に過度に依存したり、従属したりせずに、自らを律して、主体的に行動した経験を有する。

(2) 知識・理解〔AP2〕

高等学校の教育課程を幅広く履修して、学修成果を修得している。高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を理解して修得し、基礎的な問題を解くことができることを始めとして、具体的に活用することができる。

(3) 思考・判断〔AP3〕

高等学校までの学修を通じて、日常生活を始め社会における様々な問題について、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

高等学校までの学修を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

(5) 態度・志向〔AP5〕

志願する学科の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献す

るという目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修活動、課外活動やボランティア活動等において、多様な人々と協働して、目標の達成を目指した経験を有する。

社会福祉学部

社会福祉学部が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、志願する学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、社会福祉学部の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修やその他の活動において、他者に過度に依存したり、従属したりせずに、自らを律して、主体的に行動した経験を有する。

(2) 知識・理解〔AP2〕

高等学校の教育課程を幅広く履修して、学修成果を修得している。高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を理解して修得し、基礎的な問題を解くことができることを始めとして、具体的に活用することができる。

(3) 思考・判断〔AP3〕

高等学校までの学修を通じて、日常生活を始め社会における様々な問題について、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

高等学校までの学修を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

(5) 態度・志向〔AP5〕

志願する学科の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修活動、課外活動やボラ

ンティア活動等において、多様な人々と協働して、目標の達成を目指した経験を有する。

教育学部

教育学部の卒業認定・学位授与に関する方針に定めた、卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、教育学部で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、教育学部の志願者には、以下の（1）～（5）のことを求める。また、このような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施する。

（1） 自立性・自律性・主体性 [AP1]

自分自身が習得してきた資質・能力の現状を把握するとともに、それらを向上させることの必要性を自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲をもっている。また、高等学校までの学習やその他の活動において、自身の成長のために、自らを律して、主体的に、模索や試行錯誤、ふりかえりを重ねた経験を有する。

（2） 知識・理解 [AP2]

高等学校の教育課程の履修を通して、幅広い教科等に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、多様な他者と協働した経験を有している。

（3） 思考・判断 [AP3]

高等学校までの学習や日常生活等を通じて習得した知識や経験などをもとに、日常生活をはじめ社会における様々な問題の背景や諸要因などを科学的かつ論理的に説明したり、解決策を提案したりすることができる。

（4） 技能・表現 [AP4]

高等学校までの学習や日常生活等を通じて、自分なりに、また、他者と協働しながら、工夫して何かに取り組んだり提案を行ったりした経験を有する。また、それを通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎を身に付けている。

（5） 態度・志向 [AP5]

教育学部の学修において獲得する知識や技能、経験等を生かして、多様な他者とも協働しながら社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。

入学者受入れ方針（学科）

仏教学科

仏教学科が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、仏教学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、仏教学科の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修やその他の活動において、他者に過度に依存したり、従属したりせずに、自らを律して、主体的に行動した経験を有する。

(2) 知識・理解〔AP2〕

高等学校の教育課程を幅広く履修して、学修成果を修得している。高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を理解して修得し、基礎的な問題を解くことができることを始めとして、具体的に活用することができる。

(3) 思考・判断〔AP3〕

高等学校までの学修を通じて、日常生活を始め社会における様々な問題について、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

高等学校までの学修を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

仏教学科の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修活動、課外活動やボランティア活動等において、多様な人々と協働して、目標の達成を目指した経験を有する。

日本史学科

日本史学科が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、日本史学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、日本史学科の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修やその他の活動において、他者に過度に依存したり、従属したりせずに、自らを律して、主体的に行動した経験を有する。

(2) 知識・理解〔AP2〕

高等学校の教育課程を幅広く履修して、学修成果を修得している。高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を理解して修得し、基礎的な問題を解くことができることを始めとして、具体的に活用することができる。

(3) 思考・判断〔AP3〕

高等学校までの学修を通じて、日常生活を始め社会における様々な問題について、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

高等学校までの学修を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

日本史学科の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修活動、課外活動やボランティア活動等において、多様な人々と協働して、目標の達成を目指した経験を有する。

日本文学科

日本文学科が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、日本文学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、日本文学科の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修やその他の活動において、他者に過度に依存したり、従属したりせずに、自らを律して、主体的に行動した経験を有する。

(2) 知識・理解〔AP2〕

高等学校の教育課程を幅広く履修して、学修成果を修得している。高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を理解して修得し、基礎的な問題を解くことができることを始めとして、具体的に活用することができる。

(3) 思考・判断〔AP3〕

高等学校までの学修を通じて、日常生活を始め社会における様々な問題について、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

高等学校までの学修を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

日本文学科の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修活動、課外活動やボランティア活動等において、多様な人々と協働して、目標の達成を目指した経験を有する。

社会福祉学科

社会福祉学科が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、社会福祉学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してることが求められる。そのため、社会福祉学科の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修やその他の活動において、他者に過度に依存したり、従属したりせずに、自らを律して、主体的に行動した経験を有する。

(2) 知識・理解〔AP2〕

高等学校の教育課程を幅広く履修して、学修成果を修得している。高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を理解して修得し、基礎的な問題を解くことができることを始めとして、具体的に活用することができる。

(3) 思考・判断〔AP3〕

高等学校までの学修を通じて、日常生活を始め社会における様々な問題について、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

高等学校までの学修を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

社会福祉学科の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修活動、課外活動やボランティア活動等において、多様な人々と協働して、目標の達成を目指した経験を有する。

臨床心理学科

臨床心理学科が卒業認定・学位授与に関する方針に定めた卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、臨床心理学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、臨床心理学科の志願者には、以下の(1)～(5)のことを求める。

(1) 自立性・自律性・主体性〔AP1〕

自分自身の資質・能力は、まだ不十分で発展途上にあることを自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修やその他の活動において、他者に過度に依存したり、従属したりせずに、自らを律して、主体的に行動した経験を有する。

(2) 知識・理解〔AP2〕

高等学校の教育課程を幅広く履修して、学修成果を修得している。高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を理解して修得し、基礎的な問題を解くことができることを始めとして、具体的に活用することができる。

(3) 思考・判断〔AP3〕

高等学校までの学修を通じて、日常生活を始め社会における様々な問題について、情報や知識をもとにして、筋道を立てて論理的に考えて、問題が発生した背景や、問題の諸要因を説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現〔AP4〕

高等学校までの学修を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。他者の思いや考えを正確に理解するとともに、自らの思いや考えを的確に表現して、意見を交わすことができる。

臨床心理学科の学修において獲得する知識や技能を活かして、社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。高等学校までの学修活動、課外活動やボランティア活動等において、多様な人々と協働して、目標の達成を目指した経験を有する。

児童福祉学科 **2026年度より募集停止**

初等教育学科

初等教育学科の卒業認定・学位授与に関する方針に定めた、卒業時に身に付けておくべき5つの資質・能力（DP1～DP5）を身に付けた人材になるためには、教育学部初等教育学科で学ぶ目的意識や意欲を持った上で、高等学校までの学修で学んだ知識や、自ら考えて判断する力、さらに、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容等を身に付けて入学してくることが求められる。そのため、教育学部初等教育学科の志願者には、以下の（1）～（5）のことを求める。また、このような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施する。

（1） 自立性・自律性・主体性 [AP1]

自分自身が習得してきた資質・能力の現状を把握するとともに、それらを向上させることの必要性を自覚し、大学で学ぶ目的意識と意欲をもっている。また、高等学校までの学習やその他の活動において、自身の成長のために、自らを律して、主体的に、模索や試行錯誤、ふりかえりを重ねた経験を有する。

（2） 知識・理解 [AP2]

高等学校の教育課程の履修を通して、幅広い教科等に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、多様な他者と協働した経験を有している。

（3） 思考・判断 [AP3]

高等学校までの学習や日常生活等を通じて習得した知識や経験などをもとに、日常生活をはじめ社会における様々な問題の背景や諸要因などを科学的かつ論理的に説明したり、解決策を提案したりすることができる。

(4) 技能・表現 [AP4]

高等学校までの学習や日常生活等を通じて、自分なりに、また、他者と協働しながら、工夫して何かに取り組んだり提案を行ったりした経験を有する。また、それを通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎を身に付けている。

(5) 態度・志向 [AP5]

初等教育学科の学修において獲得する知識や技能、経験等を生かして、多様な他者とも協働しながら社会に貢献するという目的意識と意欲を持っている。